

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	すまいる・キッズ			
○保護者評価実施期間	2025年4月1日 ～ 2025年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数)	21
○従業者評価実施期間	2025年4月1日 ～ 2025年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	客観的な指標を用いてお子さまの発達ニーズを把握している。 その上で児童発達支援計画(個別支援計画)の作成及び支援をしている	・ Vineland II 社会適応行動尺度(標準化されたアセスメントツール)を用いた聞き取り及び評価を、全利用者対象に行っている。 ・ 出生や養育歴、5領域に関する発達状況を保護者に記入していただき、現在のみの姿ではなく成長のつながりを把握するようにしている。	・ 聞き取りのスキルアップをし、保護者の方の時間的拘束を軽減していく。 ・ 保護者の方により分かりやすいフィードバックをしている。
2	職場の風通しがよく、目標設定と支援の振り返り、活動プログラムの立案で多角的な意見交換ができています	・ 集団療育では、事前の打ち合わせや支援後の振り返りを毎回行い、全員で参加している。 ・ 個々の職員がチームの一員である意識を持ち、職場作りに参画している。 ・ 専門性や経験の違う職員間での意見交換を積極的に行うようにしている。	・ 効率的な業務遂行を行うことで、意見交換の時間確保や、職員の心身がより健康でいられる働き方をしていく。
3	相談や申し入れに対して、その都度体制をとり対応している	・ 子育てや発達に関するご相談に対して、面談の設定や必要な情報提供をしている。 ・ 関係機関連携の要望に対して、体制をとり保育園や幼稚園への訪問及び訪問先との情報共有を行っている。	・ 声をあげにくい方には、こちらから働きかけるようにしていく。 ・ なるべくタイムリーな対応ができるように日程調整していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	おたより等の広報情報が行き渡っていない	・ アピール力が足りない。 ・ ホームページにたどり着くまでに手間がかかり、手軽さが不足したツールになっている。	・ 魅力的な紙面作りのスキルアップをしていく。 ・ 魅力ある内容を検討していく。 ・ 保護者が手軽にアクセスできる手段の検討をしていく。
2	『きょうだい児支援』『地域との交流』に関して事業所独自の取り組みをしていない	・ 事業所単体では実施が難しい。	・ 法人が行っている事業の紹介を積極的に行っていく。(こども食堂・保育園地域交流事業・カフェオリジナル物品) ・ 地域資源として東京都・練馬区・発達支援センターが実施するイベント情報の広報をしていく。
3			